

平常時の備え

市川市ってどんなところ？

1 利根川流域に降った雨が集まります

市川市は江戸川の最下流に位置しており、最も広い流域をもつ利根川に降った雨が集まります。そのため、上流のダムや川の水位にも注意が必要です



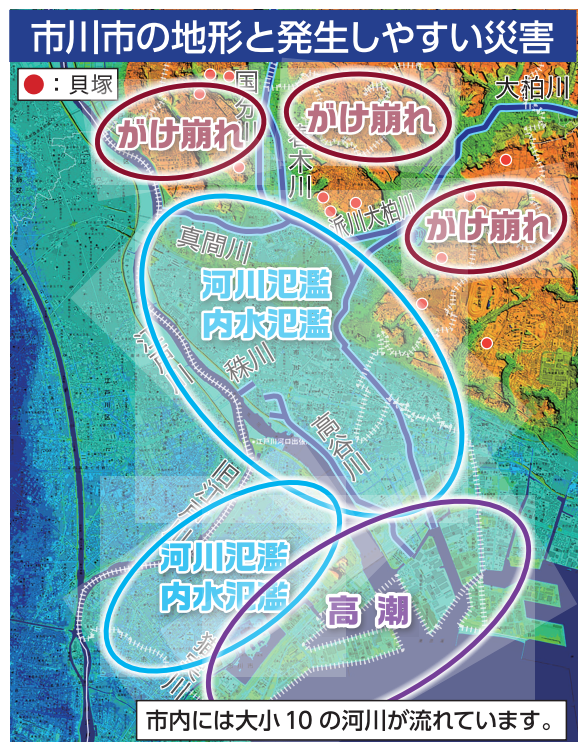
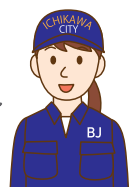
2 地域ごとに発生しやすい水害が異なります

市川市はなぜ低地が多い？

約6,000年前（縄文時代）の地球は今より暖かく、市川市のほとんどが海の中でした。この海水面が徐々に下がり、堆積した土砂の層が姿を現し、現在の市川市の地形ができあがりました。当時の海岸線に沿って多数の貝塚が発見されています。（右図の●）

もともと陸地だった北部は台地となり、海の中にあった中部と南部は低くて平らな低地となりました。そのため、市川市内は低い土地が多くなりました。

地形と自然災害はとても関係が深いんです。土地の起伏や成り立ちから災害の危険性を予測できます。水は低い所に流れるので、土地の高低を知ることが大切です。

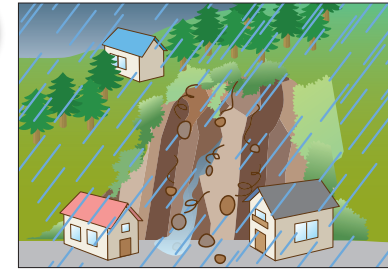


出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/degitalelevationmap_kanto.html) デジタル標高地形図 (江戸川・中川・綾瀬川流域-1) を加工して作成

覚えておこう！ 地域で異なる水害の種類

1 土砂災害(がけ崩れ)

大雨で土が多く水分を含むと、急な斜面が突然崩れ落ちる「がけ崩れ」が発生します。突発的に発生するため、逃げ遅れが発生し、人命を奪うことがあります。

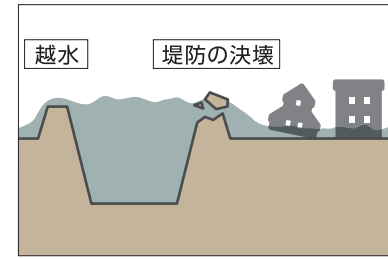


大雨が降った際には、がけ崩れに要注意！



2 河川氾濫

川の水が増水すると堤防が壊れたり、水があふれる河川氾濫が発生します。一気に水が流れ込むため、川の近くの家が壊されるなど、人命を奪うことがあります。

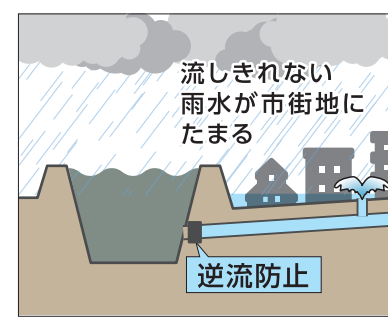


大雨が続いたり、上流の水位が高い場合は、要注意！



3 内水氾濫

大雨で排水が追いつかない時や、川の増水で雨水が排水しきれない時に内水氾濫が発生します。流れは速くありませんが、低い市街地に水が集まり、道路冠水、床上・床下浸水が発生します。

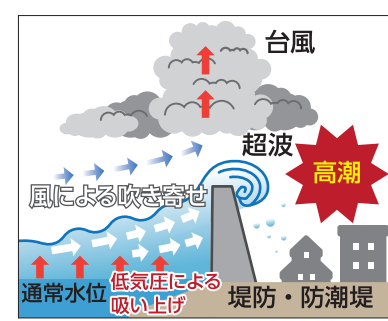


短時間豪雨や、大雨が続く場合は、要注意！



4 高潮

台風や低気圧によって海面が吸い上げられ、強い風が海側から吹き寄せると高潮が発生します。海水が堤防を越えて流れ込むため、道路冠水、床上・床下浸水が発生します。

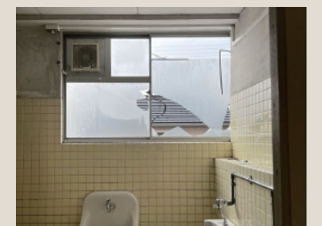


台風が通過する時間と満潮の時間が重なる時は、要注意！

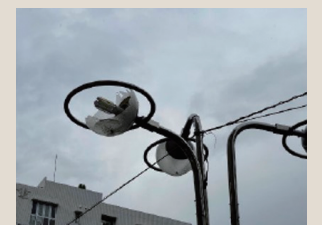


コラム ひょう被害

令和4年6月3日に、市内の一部でひょうが降りました。この降ひょうにより、市川駅周辺や、南八幡などでは、街路灯や商店街灯の破損、梨を含めた露地野菜などにも、多くの被害がありました。また、一般家庭では、窓ガラスやサンルーフの屋根などの破損がありました。日頃から、ブルーシートやガムテープ等を備蓄しておきましょう。



勤務福祉センター1分館内のトイレの窓ガラス破損



真間銀座通りの街路灯破損

平常時の備え

大雨前の備え

避難前に確認すること

避難時に注意すること